

宮城県石巻市 長浜海岸
子どもたちが地引網を体験

7 月 20 日、宮城県石巻市の長浜海岸で、子どもたちに地引網漁で海と接する機会をつくり、海に親しむことで海に関心を持ち、将来、船員職業を目指してもらうことを目的とし、JF みやぎ石巻湾支所、石巻市漁業協同組合、株式会社山根漁業部などの協力のもと、本組合主催の「地引網体験イベント」を開催し、近隣の小学生と保護者など 285 人が参加した。長浜海岸は石巻湾に面した遠浅の美しい砂浜で、魚市場や市街地に近く、人気を博している。地引網は江戸時代に全盛を誇った漁法で、潮流のあまり速くない砂浜地帯で行われていた。

当日は 9 時に受付を開始、本イベントを楽しみにしていた親子や家族が集まると、10 時に開会式がスタートした。

開会式では、高橋健二中央執行委員が「島国日本には船が無ければ経済は成り立ちません。食料の確保のためにも、地引網体験を通じて、魚の生態や資源保護を知っていただきたい。気候が変わり魚の種類も変わっているため、十分に気を付けてほしい。また、熱中症に気を付けながら、みんなで協力して網を引っ張っていただきたい」とあいさつした後、執行部から地引網体験を行うにあたってのやり方や注意事項を説明し、いよいよ地引網体験が始まった。

当日の地引網は、両端にロープのついた網をあらかじめ小型船に積み込み、ロープの一方を陸側に渡し、沖合に半円を描くように網を入れた後、もう一方のロープを陸側に渡して、網を均等に保ちながら子どもも大人も参加者全員で力を合わせ精一杯引っ張った。

網が波打ち際まで引き寄せられると、ダツ・スズキ・マゴチ・キス・コノシロ・カニ・ヒイラギ・フグなど、さまざまな海の生き物が掛かっており、子どもたちから歓声があがった。

その後は、網に掛かった魚を特設の生け簀（プール）に移すと、子どもたちは泳ぐ魚に興味を示し、目を輝かせながら観察し、魚を手にして触感や重量感を確かめて、魚との触れ合いを楽しんだ。

2 回の地引網体験を終え、閉会式を行い、参加した子どもたちからは「楽しかった」「またやりたい」などの感想が聞かれた。また、希望する参加者に魚を持ち帰る袋が渡され、長浜海岸での地引網体験は無事終了した。

「海員だより」